

# 笑いごとじやあないよ

菅田 忠志

我が家では今ひとすじまいまいという直径45ミリの体長85ミリもある大型のカタツムリを飼っている。今年5月に滋賀県余皇湖周辺の山歩きを楽しんだ際、ふもとの駐車場の草むらで見つけたもので、まだ春だというのに、夏を思わせるような強い日差しに、殻も湯ききつたように見え、入口は膜で閉ざし、なんとも苦しそうな状態に見えた。この分だと今年の夏の暑さではまいってしまつかもしれない。ちよつと迷い、思案もしたが連れ帰って飼育してみることにした。

やや大きめの昆虫飼育ケースを水洗いし、砂を入れた皿と、新鮮なレタスに加え卵の殻も入れてやり、カタツムリを行水させてから入れてやるとすぐに気持よきそつに這いまわり出した。

「やつぱり連れて帰ってよかつたんじゃない？」

- 1 -

あんなに生き生きしてきたよ」

「うん たしかに山ではそつ簡単にはレタスやニンジン・キュウリにはありつけんやろからなあ」「この世にこんなつまいもんがあつたのか…と思っているかもね」。好き勝手な会話をしながら、毎日ケースを洗い新鮮な野菜を入れてやっている。

ある日、「今夜のおかずは何にしようかなあ…」と主婦最大の憂つつな問いかけに、「いつものように的確な提案もできずにいたら、「むかし食べたエスカルゴ、どんな味やつたか忘れてしもたなあ…」

どきつ！ とした。いや、いちばんどきつとしたのはカタツムリご当人だろう。それまでのそつと這っていた動きが心なしか縮んでしまったように見え、二人顔を見合せて笑ってしまった。

- 2 -